

令和7年度

恩納村サンゴ礁モニタリング

調査実施業務 報告書

0m

100m

2026年3月

恩納村

1 目次

1 目次	01
2 事業目的	02
3 リーフチェックとは	03
4 サンゴ礁モニタリング結果	04
5 調査中の様子・その他	12
6 結果の分析-専門家コメント	14

2 事業目的

本村におけるサンゴ及びサンゴ礁の状態を、適切な手法『リーフチェック』を用いてデータとして蓄積し、継続的に把握していくことを目的とする。

本村では、「サンゴのむらづくりに向けた行動計画(2020改訂版)」の中で「環境保全に関わる各種団体等への支援」として「海域におけるモニタリング調査等への支援」が明記されている。あわせて「各主体の取り組み」の項目では、一般社団法人恩納村マリンレジャー協会（以下：当協会）の取り組みとして「リーフチェックの定期実施」が盛り込まれている。

過去、恩納村では2020年、2021年、2023年に養成講座を開催して当協会に所属する事業所・インストラクターを中心に、延べ23名のチームリーダー、チーム科学者が誕生した。今後は、村内において自らの手でサンゴ礁のモニタリング調査を実施継続し、調査結果の積み上げと公開、環境保全に努めていきたい。（2026年養成講座開催予定）



2020年講座認定式



2021年講座認定式



2023年講座認定式

3 リーフチェックとは

「サンゴ礁が健全な状態であるのか」を知る方法が『リーフチェック』です。リーフチェックは、世界統一のルール・手法で行われるサンゴ礁の調査で、現在は102の国と地域で14,000回以上実施されています。

この取り組みはサンゴ礁保全のため、統一された方法でデータの蓄積を行っていくことと、ダイバーが調査に参加することが目的です。シンプルな手法と役割分担がされており、参加によるサンゴ礁保全に向けた意識醸成や普及啓発も大きな目的となっています。

このリーフチェックを行うためには、現場を統括する「チームリーダー」と、調査の精度を担保するために海洋科学者から認定を受けた「チーム科学者」が必要となっています。



Reef Check World Wide

<https://www.reefcheck.org/>



リーフチェック中の様子

4 サンゴ礁モニタリング結果（真栄田岬）

水深3m、10mラインをトレースした動画はこちらから視聴可能です
（撮影日2023年）



3mライン⇒<https://youtu.be/7b0RnOSFe54>

10mライン⇒<https://youtu.be/5BxLRypM0vI>

基礎データ

実施日	2025/7/10（木）
調査地	真栄田岬
T L / T S	稲村雅司/池野正一
天候	曇り
気温	31℃
水温	27.8℃
透明度	15～20m
海況	南東の風 波1m
潮汐	中潮3日目 満潮5：43（197cm） 干潮12：40（26cm）
実施主体	（一社）恩納村マリンレジャー協会

参加メンバー・調査担当

所属	氏名	水深3mライン	水深10mライン
ナギ	稲村 雅司	ライン設置	ライン設置
ナチュラルブルー	星原 貴保	ライン設置	ライン設置
ナチュラルブルー	義村 功貴	底質	底質
マリンクラブベリー	中満 迅	魚類	魚類
マリンクラブベリー	比嘉 愛	魚類	魚類
ラグーン	アレックス	無脊椎	無脊椎
ラグーン	大嶋 紗織	無脊椎	無脊椎
一般参加	秋元 智道	無脊椎	無脊椎
一般参加	積田 慧加	無脊椎	無脊椎
一般参加	佐藤 佳代	底質	底質
ラグーン	池野 正一	無脊椎/撮影	無脊椎/撮影

使用船舶/船長

シーウェット/山城正巳（真栄田漁港）

真栄田岬リーフチェックレポート【底質】

「底質」の調査結果

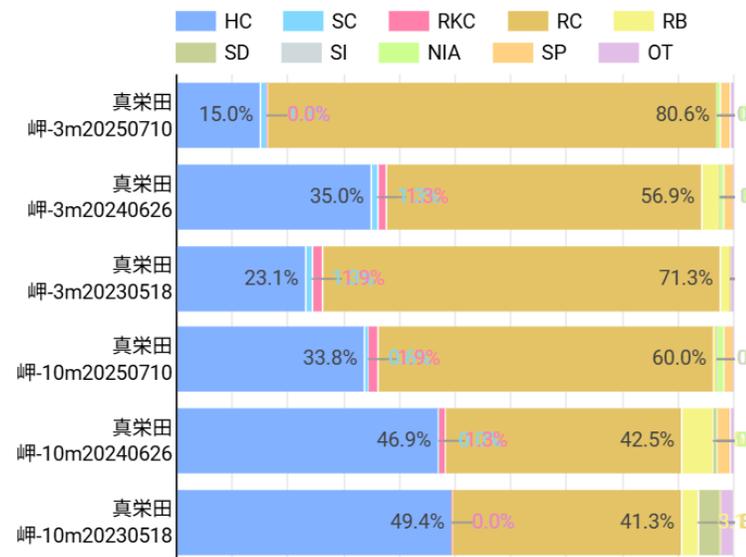
真栄田岬

2025/07/10

調...	コメント：底質【3~6mライン】浅場	コメント：底質【10mライン】深場
2025/07/10	昨年の大規模白化後、HCは半分以下となった。HCはミドリイシ系ではなくキクメイシなど。SCはスナギンチャク。RKCが少ないのは昨年夏に死滅したサンゴが約1年経ちRCとなった。	昨年の大規模白化後、HCは47%→33%となった。シアノバクテリアが見られた。HCは少なくなっていたが、着床後1~3年ほどの小さなサンゴが生きていて良かった。
2024/06/26	去年よりサンゴは12%程増えている。サイズが大きくなっている。3mの後半はRCが目立つ。前半でサンゴが増えている印象。スナギンチャクが多い。	スタート地点の部分は昔着底している場所だったが今はあまり着底する場所ではなくなってきたのでサンゴが増えている。ライン上のハナヤサイサンゴ（他数個体）が放精していた。
2023/05/18	洞窟へ行くまでのラインとなり、体験ダイバーが多く往来するエリア。フィンでキックしたり、着底する等の影響なのか、恩納村の他エリアに比べサンゴ被度が少ない結果だった。2000年以前もサンゴが少ないエリアだった、陸域からの影響（赤土、農薬）もあるかも。	スタートエリアは大きなミドリイシが多く健全な状態だった。レイシガイの食害が見られた。真栄田岬の利用者の多くは浅瀬利用が多いため人的影響は少ないように思えた。70メートル付近のブイ周辺はサンゴが少なく感じた。

水深	調査実施日	調査者	HC	SC	RKC	RC	RB	SD	SI	NIA	SP	OT
3m	2025/07/10	佐藤佳代・義村功貴	15.0%	1.3%	0.0%	80.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	1.9%	0.6%
3m	2024/06/26	桐本 香織・義村	35.0%	1.3%	1.3%	56.9%	3.1%	0.0%	0.0%	0.6%	1.9%	0.0%
3m	2023/05/18	比嘉愛・梶本航	23.1%	1.3%	1.9%	71.3%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
10m	2025/07/10	義村 功貴	33.8%	0.6%	1.9%	60.0%	0.6%	0.0%	0.0%	1.3%	1.9%	0.0%
10m	2024/06/26	桐本 香織・義村 功貴	46.9%	0.0%	1.3%	42.5%	5.6%	0.6%	0.0%	0.0%	2.5%	0.6%
10m	2023/05/18	山西真哉・大嶋紗織	49.4%	0.0%	0.0%	41.3%	3.1%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%

HC：造礁サンゴ SC：ソフトコーラル RKC：最近死んだサンゴ RC：岩 RB：礫
SD：砂 SI：シルト/粘土 NIA：富栄養化の指標となる海藻 SP：海綿 OT：その他



真栄田岬リーフチェックレポート【無脊椎動物】

「無脊椎動物」の調査結果

真栄田岬

2025/07/10

調... コメント：無脊椎動物【3~6mライン】浅場

2025/07/10 2.5mの棒を準備して距離を測りながら実施。昨年に続きシャコガイが多い。※スタート時点が10mほどずれたのが原因か？調査対象外のタワシウニが多かった。あまり見られないサザエが2個体いた。

2024/06/26 50Mライン以降のヒメジャコガイがかなり多い（分布は昨年同様で約3倍）後半部分にかなり偏っている（7:3）かなり小さいサイズのシャコガイが目立つ（10cm未満の8割が稚貝）年間1cm~1.5cm成長する？ ナマコがほとんどいない ナガウニ12 ウミウシ1

2023/05/18 シャコガイが300オーバー、特に後半エリアが多かった。前半は礁斜面のため少ないのか？ナマコが少ない。

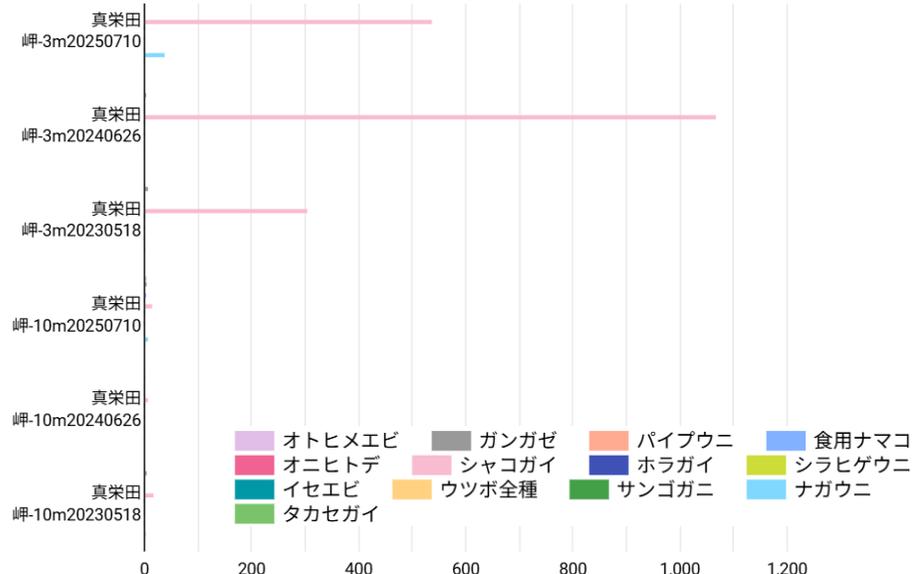
コメント：無脊椎動物【10mライン】深場

対象の生物が少なかった。オトヒメエビがいた。レイガイダマシ50匹以上駆除した。万座エリアはミドリイシに多いが、真栄田はハナヤサイサンゴにいた。オニヒトデの食痕みたいなのが合ったがオニヒトデはいなかった。

タコ2匹、アカメハゼ、サンゴ周りにアマミなどの幼魚がいた ゴミ釣りの重り、糸、ビニテ、フィンストラップの破片

小さめのガンガゼがいた。前半エリアは生き物が住み着きそうな穴が多かったがいなかった。万座エリアと比べてサンゴ、生物が少なく色鮮やかに欠けるように感じた（ざわざわしていない）

水深	調査実施日	調査者	オトヒメエビ	ガンガゼ	パイプウニ	食用ナマコ	オニヒトデ	シャコガイ	ホラガイ	シラヒゲウニ	イセエビ	ウツボ全種	サンゴガニ	ナガウニ	タカセガイ
3m	2025/07/10	池野正一・大崎紗織・Alexander Pike・秋元智道・積田慧加	0	2	0	0	0	538	0	0	0	0	0	40	0
3m	2024/06/26	佐藤佳代・山西真哉・吉野一真	0	3	0	0	0	1,068	0	0	0	0	0	0	0
3m	2023/05/18	菅井・吉原・山西・石橋	0	8	0	0	0	306	0	0	0	0	0	0	1
10m	2025/07/10	池野正一・大崎紗織・Alexander Pike・秋元智道・積田慧加	4	4	0	3	0	15	0	0	0	0	0	8	1
10m	2024/06/26	佐藤佳代・山西真哉・吉野一真・東斐実	0	1	0	0	0	9	0	0	0	0	0	1	0
10m	2023/05/18	堀本・比嘉・菅井・石橋	1	4	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	2



真栄田岬リーフチェックレポート【魚類】

「魚類」の調査結果

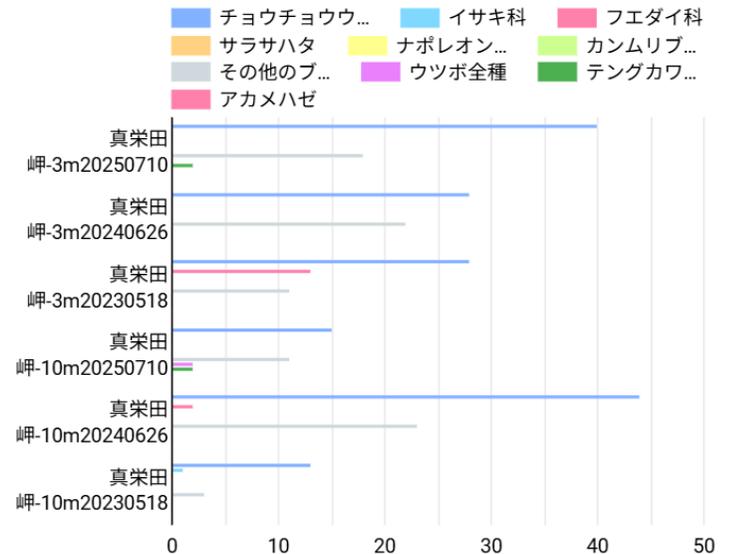
真栄田岬

2025/07/10

調...	コメント：魚類【3~6mライン】浅場	コメント：魚類【10mライン】深場
2025/07/10	昨年より魚類は少なく感じた。餌付けをしているところに魚が集まっている。チョウチョウウオの種類はカガミ、ミスジ、フウライ、ウミツキ、アミメ、ツミツキトノサマダイ、ハナグロなどが見れた。アオヤガラが多く感じた。他エリアと比べ魚種が少なく感じた。	浅場同様、魚類が少なく感じた。アオヤガラが多く感じた。いつもいたコショウダイの群れが見えなかった。テングカワハギが2匹いたが減っていた。
2024/06/26	チョウチョウウオは同数、フエダイは群れに当たらなかった可能性泳ぐとついてくるイメージ 4割くらいの方が餌付けしている印象 シュノーケルで餌付けしている関係で魚が水面近くにいる（スズメダイ系）	チョウチョウウオは多い印象 フウライウオは人についていく
2023/05/18	利用者が多く、餌付けの影響でスズメダイ、クロニザ、シマハギ、イスズミが寄ってくる。対象のチョウチョウウオ、ブダイが多かった。	恩納村内別エリアと比較して10メートルラインに魚影が薄いと感じた。餌付けが多くされている3mラインに魚が集まっている影響かもしれない。

水深	調査実施日	調査者	チョウチョウウオ科	イサキ科	フエダイ科	サラサハタ	ナポレオンフィッシュ	カンムリブダイ	その他のブダイ科	ウツボ全種	テングカワハギ	アカメハゼ
3m	2025/07/10	中満 迅・比嘉 愛	40	0	0	0	0	0	18	0	2	0
3m	2024/06/26	安部真理子・比嘉愛	28	0	0	0	0	0	22	0	0	0
3m	2023/05/18	Ikeno Shouichi・Oshima Saori	28	0	13	0	0	0	11	0	0	0
10m	2025/07/10	中満 迅・比嘉 愛	15	0	0	0	0	0	11	2	2	0
10m	2024/06/26	安部真理子・比嘉愛	44	0	2	0	0	0	23	0	0	0
10m	2023/05/18	Yoshinare Kazuma	13	1	0	0	0	0	3	0	0	0

1 - 6 / 6 < >



4 サンゴ礁モニタリング結果（ドリームホール）

水深3m、10mラインをトレースした動画はこちらから視聴可能です
(撮影日2025年)



3mライン⇒<https://youtu.be/9SrTmCjI1Nk>

10mライン⇒<https://youtu.be/cCTXfcfatbl>

基礎データ

実施日	2025/11/24 (月)
調査地	万座ドリームホール
T L / T S	池野正一/比嘉愛
天候	晴れ
気温	25°C
水温	24.6°C
透明度	20m
海況	北東の風 波1.5m
潮汐	中潮 満潮9:23 (168cm) 干潮 14:38 (102cm)
実施主体	(一社) 恩納村マリンレジャー協会

参加メンバー・調査担当

所属	氏名	水深3mライン	水深10mライン
ラグーン	山本 浩章	魚類/無脊椎	ライン設置/魚類
ラグーン	吉馴 一真	無脊椎	ライン設置
マリクラブベリー	比嘉 愛	無脊椎	無脊椎
ラグーン	大嶋 紗織	底質	底質
マリクラブベリー	崎枝 孝行	無脊椎	無脊椎
ラグーン	志水 芳美	底質	底質
ラグーン	池野 正一	ライン設置/マーカー修理/撮影	マーカー修理/撮影

使用船舶/船長

美千/銘苺和成 (恩納漁港)

ドリームホールリーフチェックレポート【底質】※直近3年分データ

「底質」の調査結果

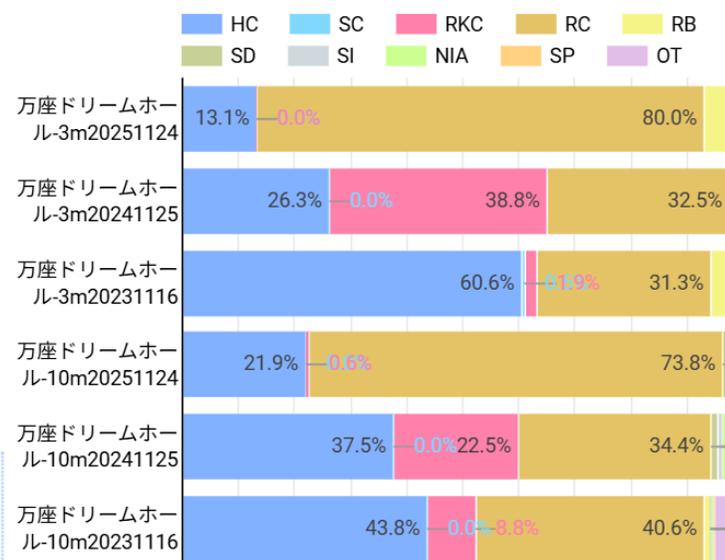
万座ドリームホール

2025/11/24



調...	コメント：底質【3～6mライン】浅場	コメント：底質【10mライン】深場
2025/11/24	サンゴ被度は昨年26%から13%へ減少。目視とRKCが無いことから今夏に白化したサンゴは少なそう。ハナヤサイ、ヘラジカは元気で大きい群体が目立つ。死サンゴには茶色藻が付着している。	サンゴ被度は昨年37%から21%へ減少。目視とRKCが少ないことから今夏に白化したサンゴは少なそう。死サンゴに茶色藻やチャツボボヤが付着しているのが目立った。
2024/11/25	今夏の白化で死滅したであろうサンゴが38%、生きているサンゴが26%、昨年比で生きているサンゴが半分以下となった。最近死んだサンゴは枝の形がまだ残っている。ハナヤサイ、ヘラジカ、被覆状サンゴが多い。死滅したのはミドリイシが多かった。	今夏の白化で死滅したであろうサンゴが22.5%、生きているサンゴが37.5%、水深3mに比べると生存しているサンゴ多かったが、目視上では生きているサンゴと死サンゴがまばらに見えた。データでは目立たないがチャツボボヤが多くいるエリア有（RKCよりRCに付着している印象）
2023/11/16	一部死滅しているハナヤサイサンゴが目立った。全体的にサンゴ被度は高いエリアだが、50～60mエリアの浅場はサンゴが少なく見えた（魚も少なかった）。10mに比べサンゴの色が濃く、縄張り争いが盛んに行われているように見えた。	チャツボボヤが前半多かった。部分的に白化しているサンゴ、一部死んで藻が増えているサンゴが目立った。完全白化ではなく色が薄くなっているサンゴが少数だけ見られた。

水深	調査実施日	調査者	HC	SC	RKC	RC	RB	SD	SI	NIA	SP	OT
3m	2025/11/24	大嶋紗織・志水芳美	13.1%	0.0%	0.0%	80.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
3m	2024/11/25	桐本香織	26.3%	0.0%	38.8%	32.5%	0.6%	1.3%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
3m	2023/11/16	佐藤佳代・積田慧加	60.6%	0.6%	1.9%	31.3%	5.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10m	2025/11/24	大嶋紗織・志水芳美	21.9%	0.0%	0.6%	73.8%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%
10m	2024/11/25	桐本香織	37.5%	0.0%	22.5%	34.4%	0.0%	1.3%	0.6%	0.6%	1.3%	1.9%
10m	2023/11/16	佐藤佳代・積田慧加	43.8%	0.0%	8.8%	40.6%	1.3%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	5.0%



HC：造礁サンゴ SC：ソフトコーラル RKC：最近死んだサンゴ RC：岩 RB：礫
SD：砂 SI：シルト/粘土 NIA：富栄養化の指標となる海藻 SP：海綿 OT：その他

ドリームホールリーフチェックレポート【無脊椎動物】 ※直近3年分データ

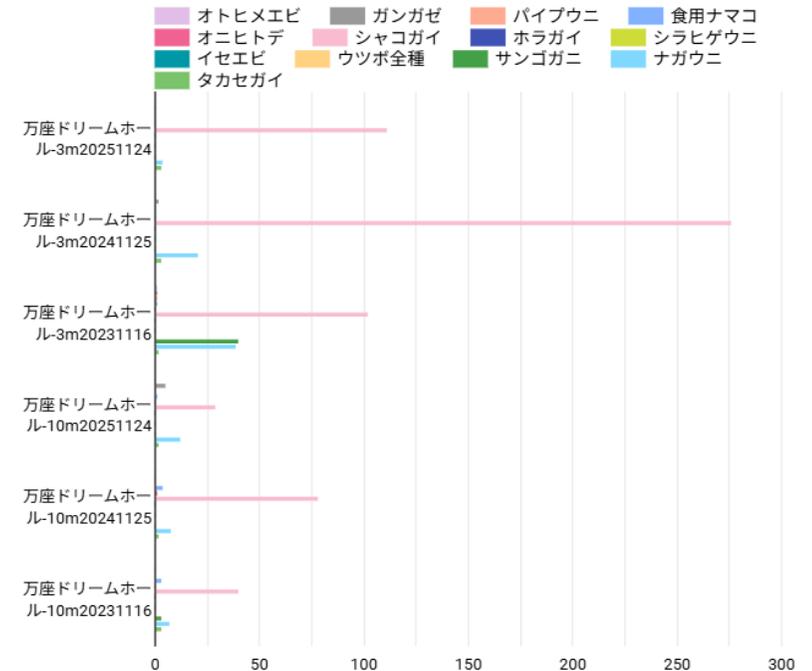
「無脊椎動物」の調査結果

万座ドリームホール

2025/11/24

調...	コメント：無脊椎動物【3～6mライン】 浅場	コメント：無脊椎動物【10mライン】 深場
2025/11/24	前年大幅に増えたシャコガイが半数以下に減少。その他調査対象種も多くなかった。1年前から大量発生しているレイシガイダマシは多かった。	水深3mと同様シャコガイは減少。1年前から大量発生しているレイシガイダマシは多かった。
2024/11/25	シャコガイが大幅に増えた。10cm未満が全体の54%で、内9割が1～2cmサイズだった。10cm以上の個体は20cm近くのサイズが多い。レイシガイダマシが大量発生（生きているヘラジカ、ハナヤサイに多い）小さめのヒトデの種類が多かった。後半にナガウニが多かった。	シャコガイが増えた。水深3mよりサイズは大きめ。マンジュウヒトデ3匹、オニヒトデ30cm、サザエ大1匹、ウツボクリーニングでオトヒメエビいた。レイシガイが目立った。
2023/11/16	シャコガイの殻のみが目立った。前年に比べシャコガイの数も減っている。大きな見られなかった。	シャコガイの殻のみが目立った。前年に比べシャコガイの数も減っている。シカクナマコが大きく減っていた。

水深	調査実施日	調査者	オトヒメエビ	ガンガゼ	パイプウニ	食用ナマコ	オニヒトデ	シャコガイ	ホラガイ	シラヒゲウニ	イセエビ	ウツボ全種	サンゴガニ	ナガウニ	タカセガイ
3m	2025/11/24	比嘉愛・崎枝孝行・山本浩章・吉馴一真	0	0	0	0	0	1...	0	0	0	0	0	4	3
3m	2024/11/25	坂部芽音・志水芳美・佐藤佳代・星原貴保	0	2	0	0	0	2...	0	0	0	0	0	21	3
3m	2023/11/16	義村功貴、石橋信宏、坪根雄大、比嘉愛	1	1	1	1	0	1...	0	0	0	0	40	39	2
10m	2025/11/24	比嘉愛・崎枝孝行	0	5	0	1	0	29	0	0	0	0	0	12	2
10m	2024/11/25	佐藤佳代・坂部芽音・星原貴保・志水芳美	0	0	0	4	1	78	0	0	0	0	0	8	2
10m	2023/11/16	義村功貴、石橋信宏、坪根雄大、比嘉愛	0	0	0	3	0	40	0	0	0	0	3	7	3



ドリームホールリーフチェックレポート 【魚類】 ※直近3年分データ

「魚類」の調査結果

万座ドリームホール

2025/11/24

調... コメント：魚類【3～6mライン】浅場

コメント：魚類【10mライン】深場

2025/11/24 透明度が10～15mと悪かった。全体的に調査対象魚が少なく感じた。50-70mエリアではアカハメジ100匹程、ノコギリダイ30匹程群れていた。山本浩章1人調査

ライン張りでトラブルがあったため、15分待機せず調査をすることになった。前年に比べ魚類数が減少しているがその事が理由かは不明。現地ガイドとしてはチョウチョウウオやブダイが減少している感覚はない。始点近くのドロップ沿いはカスミチョウチョウウオが群れていた。大きなアオウミガメも数個体確認できた。終点付近にニセゴイシウツボは確認できた。山本浩章1人調査

2024/11/25 始点近くがデバ、オキナワズメダイ、終点付近にノコギリダイ、20cm程のアカハタが2匹
他調査員の影響で魚が散ってしまったかも。

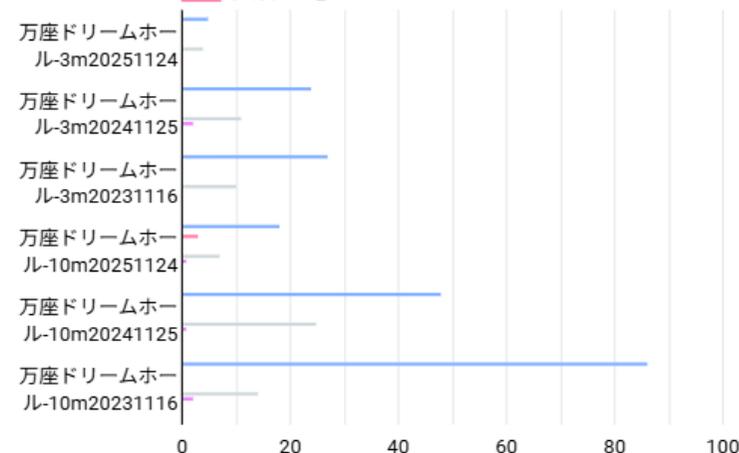
始点近く壁沿いはカスミチョウチョウ、アカモンガラ（産卵行動が見れた？）、ホソカマス群、アオウミガメが11個体（10置に7個体）、始点と終点にニセゴイシウツボ（おそらく同一個体）4年前から確認できている。

2023/11/16 サンゴ被度が少ない50～60mエリアには魚が特に少なかった。オキナワ、キホシズメダイがいたが全体的に魚が少なく感じた。

調査エリア外ではあるが、ドロップオフ沿いにカスミチョウチョウウオ、アカモンガラの群れ。10m地点の一部白化サンゴのポリプをチョウチョウウオ（ヤリカタギ、ゴマ、ミソレ、カガミ、ハナグロ、ミスジ、イッテン）がつついていて、100m地点にニセゴイシウツボがいた（一昨年にも発見）ライン引きの際にアオウミガメが3匹以上確認。

水深	調査実施日	調査者	チョウチョウウオ科	イサキ科	フエダイ科	サラサハタ	ナポレオンフィッシュ	カンムリブダイ	その他のブダイ科	ウツボ全種	テングカワハギ	アカメハゼ
3m	2025/11/24	山本浩章	5	0	0	0	0	0	4	0	0	0
3m	2024/11/25	大嶋沙織(左)・比嘉愛(右)	24	0	0	0	0	0	11	2	0	0
3m	2023/11/16	大嶋沙織・星原貴保	27	0	0	0	0	0	10	0	0	0
10m	2025/11/24	山本浩章	18	0	3	0	0	0	7	1	0	0
10m	2024/11/25	大嶋沙織(左)・比嘉愛(右)	48	0	0	0	0	0	25	1	0	0
10m	2023/11/16	大嶋沙織・星原貴保	86	0	0	0	0	0	14	2	0	0

■ チョウチョウウオ... ■ イサキ科 ■ フエダイ科
■ サラサハタ ■ ナポレオン... ■ カンムリブ...
■ その他のブ... ■ ウツボ全種 ■ テングカワ...
■ アカメハゼ



5 調査中の様子・その他（真栄田岬）



2025/7/10 真栄田漁港
調査メンバー



青の洞窟で人気のダイビングス
ポット「真栄田岬」



調査対象無脊椎生物を記録中
2.5mの棒を利用



調査対象魚類を記録中

リーフチェックは、世界統一のルール・手法で行われるサンゴ礁が健全な状態であるかを知る為の調査です。作業期間中、皆様のご理解とご協力を願います。

Schedule
R7.7.10
【THU】 8:30~12:30
@真栄田岬 CAPE MAEDA
実施：恩納村マリンレジャー協会

Information ☎ 098-966-1201
恩納村役場 企画課

OMA
Onna Village Marine Association

一般利用者向けにリーフチェック
調査中であることを看板設置

5 調査中の様子・その他（ドリームホール）



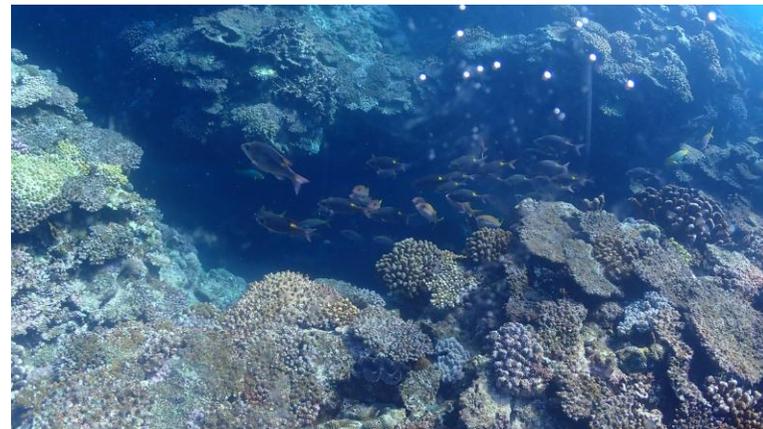
2025/11/24 恩納漁港
調査メンバー



水深10mの終点あたりに毎年確認している
ニセゴイシウツボ



調査中の様子



写真では生きているサンゴに見えるが死滅して藻が
生えているサンゴが多い ノコギリダイの群れ

6 結果の分析-専門家コメント

リーフチェックの結果については、「リーフチェックチームリーダー・チーム科学者養成講座」の講師を努めて頂いた安部真理子氏（公益財団法人日本自然保護協会・リーフチェックコーディネーター）に、以前の結果や周辺海域との比較をふまえての分析コメントを頂いた。

- 1998年、2007年、2016年、2024年に世界規模のサンゴの大規模白化現象が各地で起きた。日本でも琉球列島各地のみならず三宅島や高知県など北に位置する場所でもサンゴの白化が確認された。沖縄島周辺も北部から南部まで被害が生じた
- 真栄田岬の2025年6月の調査結果ではサンゴの被度が3mライン35.0%から15.0%まで半分に減少し、10mラインは46.9%から33.8%と3割ほど減少した。
- 万座ドリームホールでは3mラインの被度が2024年11月には60.6%から26.3%と半分に下がり、今回はさらに13.1%にまで減少した。10mラインでも2024年11月に43.8%から37.5%と減少し、今回はさらに21.9%にまで減少した。

- 2025年は沖縄島西海岸では2024年ほどではなかったものの高水温が続いており、ダメージが蓄積し、サンゴに影響が出たものと考えられる。
- 真栄田岬の3mラインではシャコガイの数が1,000個体から536個体に減少し、ナガウニの数が増えている。シャコガイがいた場所をナガウニが使うようになったと考えられる。
- また今回から調査範囲を正確に測れるツールを導入したので、シャコガイの数が正確に測れるようになった。前年度までは範囲外の個体も若干カウントしていた可能性がある。
- 真栄田岬のチョウチョウウオの増加は調査員のコメントからもうかがえるよう餌付けの影響が大きいと考えられる。
- ドリームホールではチョウチョウウオやブダイの数が減少した。
- ここ数年の調査結果よりチョウチョウウオやシャコガイとサンゴ礁の健康度の関連性が明らかになった

6 結果の分析-専門家コメント

- 万座ドリームホールでは引き続きチャツボボヤが多く確認された。特定の生物が数年にわたり多く確認されることは珍しい。今後も継続観察を行う必要がある。
- サンゴを食べるシロレイシガイダマシが増えている。サンゴが弱ると食害生物（オニヒトデ、シロレイシガイダマシなど）が増えるので、可能な限り駆除する必要がある。
- 両ポイントとも、深場にはまだサンゴが残っているので今後の回復を期待する
- 2つのポイントがどのように変遷していくか、いずれも長期的なモニタリングが重要である。

2026年3月 安部真理子

令和7年度恩納村サンゴ礁モニタリング

調査実施業務 報告書

2026年3月作成

一般社団法人恩納村マリンレジャー協会

池野 正一